

2024年度事業報告書（美ヶ丘敬楽荘）

はじめに

「美ヶ丘敬楽荘」はサテライト施設である「せせらぎの家ゆとり」との一体的運営体制を目指し、基本方針及び重点目標に沿いながら、施設運営を行ってまいりました。今年度を振り返り、当初目標としていた、働きやすい職場環境づくり、経営の安定化には、まだまだ至らないのが現状です。次年度も、一体的運営体制構築の為、美ヶ丘敬楽荘拠点、せせらぎの家拠点が、サービス拠点区分を超えた連携の強化を図り、高齢部門全体の強みを活かした経営体制ができるよう努めてまいります。諸経費の高騰や物価の高騰、最低賃金の改定による人件費の増加等は施設経営を大きく圧迫し、多大な影響をもたらしております。改善について対応できることは、可能な限り高齢部門全体の課題としてとらえ一体的運営のメリットを活かし収支改善を行い、安定経営を図ることが出来る様努めてまいります。

また、介護人材の不足は美ヶ丘敬楽荘においても最重要課題となっております。ハローワークや福祉人材バンク主催の企業説明会への積極的な参加や美ヶ丘敬楽荘にて職場説明会を独自開催しましたが、人員不足の解消には至っており、慢性的な人員不足により、職員一人一人にかかる負担も大きくなっていることが現状です。次年度も継続的に、企業説明会等の参加を積極的に行い、介護人材の獲得と、職員の定着率向上のため、全職員が長く安心して勤務できる職場環境づくりを目指してまいります。次年度中にはジャパングオリティとの提携の元、外国人介護人材第2期生(特定技能第1号 ミャンマー人 2名)の入国を予定しております。今年度入社3年目を迎える、フィリピン人2名につきましては、今年度、夜勤業務を1人で行うこともできており大きな戦力となっております。今後も継続し日常生活のサポートから日本語や介護に関する知識・技術習得を支援し、介護福祉士資格取得を目指して支援してまいります。

そして、トータルケア・プログラムを導入し9年が経過しました。トータルケアを中心としたケアの確立を図るため、職員による基礎介護研修の実施や全国高齢者ケア研究会が主催する研修会への参加、認知症カンファレンスシートの作成と定期的なカンファレンスの開催など、継続的行ってまいりました。次年度も引き続きトータルケア・プログラムの推進に取り組み、トータルケアの理解及び知識・技術の深化を進めてまいります。

美ヶ丘敬楽荘は2024年度、個々の入居者様の健康維持と生活の充実を目指し、多職種連携のもと年間目標利用率を96.5%設定し運営を行ってまいりました。2024年度は新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生が2度あったこともあり、コロナ罹患後の体調不良や持病の悪化等による入院者が例年よりも多く、年間平均稼働率は93.1%と当初の目標を達成することができませんでし

た。次年度は医療・介護連携をはじめ、入居者様の健康状態に応じたケースカンファレンスの開催を迅速に行い、健やかに施設での生活を継続できるよう努めてまいります。

短期入所生活介護「美ヶ丘敬楽荘」では、長期に利用していただいているご利用者様の確保や空床利用の活用を推進した結果、年間平均 96.5%と当初目標を上回ることが出来ました。

2025 年度、今後ますます施設経営が厳しさを増す中、「美ヶ丘敬楽荘拠点」、「せせらぎの家拠点」が連携を強化し高齢部門全体で一体的な運営を行うことで、ひとつひとつの事業所が、この先も地域に必要とされる事業所であり、地域包括ケアシステムの一翼を担うことが出来る様、地域に根差した身近な存在となれるよう努めてまいります。

2025年3月31日

特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘
副施設長 福地 寛己

2024年度事業報告書（デイサービスセンター）

はじめに

今年度美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターは頭と体と心の活性化を念頭に置き、基本方針及び重点目標に沿いながら事業所運営に取り組んでまいりました。目標利用率を90%と設定し、運営してまいりましたが、年間平均利用率は76.5%と目標を下回る結果となりました。主な要因として医療機関への長期入院や施設入所による利用廃止者の増加、また体調不良等を理由とする休止者が多くなったことが考えられます。

新規利用者獲得のため、広報活動を強化し、活動内容や毎月の行事、特色等お知らせする広報誌やチラシ等を、地域包括支援センターや各居宅介護支援事業所へ配布し、利用者登録の空き情報と合わせてお知らせし、2025年1月頃より体験利用者申し込みの相談や新規登録者も徐々に増え始めております。

次年度は目標利用率を85%と再設定し、目標を達成することが出来るよう、サービスメニューの振り返りを行い、新規利用者獲得の為、広報活動の継続と現在利用していただいている利用者様により満足していただけるサービスの提供ができるよう、日々の健康状態の確認や相談、助言、他者との交流による社会的孤立感の解消、心身の維持向上、ご家族様の介護負担の軽減を図るなど、それぞれの利用者様が生きがいを持って楽しく自宅での生活を継続できるよう

努めてまいります。

基本方針及び重点目標に沿いながら事業所運営を実施し、介護予防に重点を置きながら、機能訓練指導員を中心としたリハビリテーションを行い、個別での対応や利用者様のニーズ、想いを再確認し、より一層利用者様の ADL の維持・向上と体の柔軟性を高め、筋力の維持向上を目指し、質の高いより効果の期待できるプログラムの実施に努めてまいります。

北斗市総合事業基準緩和型サービス A として実施してまいりました生きがいデイサービスは目標利用率を 70%と設定し運営してまいりましたが、年間平均利用率 67.4%と達成することができませんでした。

次年度は利用者様の満足度向上のプログラムの見直しや広報活動を継続し、生きがいデイサービスでの生活リハビリや屋外行事等を通じ、個人の特技を活かすことができる、生活に直結したプログラムを随時検討し、介護予防、利用者様の生きがいづくりを念頭に置き、目標利用率 70%を達成できるよう努力してまいります。

またいつまでもお元気に過ごしていくことができるよう、生きがいづくり・健康づくりのための施策を、美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターと生きがいデイサービスがタイアップして企画実践していき、総合相談窓口機関の充実と自立支援の取り組みを進め、ご利用者様とご家族様に安心してご利用いただける生きがいデイサービスセンターを目指してまいります。

2025年 3月31日

美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンター
主任生活相談員 島村 哲也

2024年度事業報告書（ケアプランセンター）

はじめに

2024年度、美ヶ丘ケアプランセンターは利用者様、ご家族にとって満足度の高い支援を展開することを念頭におき、さらには地域における総合的な相談窓口としての役割を果たすべく日々の業務に取り組んでまいりました。

年度初めには部署内の介護支援専門員 4 名全員が主任介護支援専門員という体制を活かし、北斗市役所や北斗市地域包括支援センター、医療機関、各サービス事業所様、地域住民の皆様からの各種相談を積極的に受け入れてきました。昨年 9 月には事業所のより一層の体制強化を図るべく、介護支援専門員を 1 名増員し、北斗市内でも様々なニーズに対応できる事業所として、各関係機関か

ら認めていただけるよう努めてまいりました。実際のサービス調整においては、利用者様が個々に抱える課題を的確にアセスメントし、課題解決につながるサービスや適性頻度を設定することで、利用者様が住み慣れた地域で暮らし続けられるようなケアマネジメントを徹底してきました。特に行政との連携においては介護保険担当課だけでなく、経済的な理由により十分なサービス利用が難しいケースでは生活保護の申請につなげる等、福祉課とも連携しながら多岐にわたり対応にあたってまいりました。利用者様やご家族が当事業所の提供する支援に満足いただいているかを把握できるよう、利用者様の近況を事業所全体で情報共有し、時には担当以外の職員からも意見をもらいながら日々の業務に取り組んでまいりました。今後も多くの関係機関や地域住民の皆様との連携を強化し、協力をいただきながら、各利用者様にとって満足度の高いケアマネジメントを目指します。

職員のスキルアップについては、対面研修への参加を中心に取り組みました。毎年開催している他法人との合同研修を3回開催したほか、認知症や指定難病等、疾患に関する研修、ヤングケアラー等、社会的な問題について、多くの研修に参加することで、各職員が新たな知識を得る機会を持つことができました。北斗市で想定される自然災害についての研修では、災害への事前対策や訓練の重要性、命を最優先し守ることを意識して行動することの重要性を学びました。また、昨年10月には北斗市主催の「自立支援型地域ケア会議」において事例提供する機会がありました。利用者様へ「何を支援するか」のみでなく、「何ができるようになりたいと希望されているのか、そのために何が必要か」の視点を持ってケアマネジメントを展開するため、北斗市の保健師や管理栄養士等、多くの職種から意見をいただく貴重な機会となりました。次年度も引き続き多くの研修への参加や企画によりスキルアップを図ります。

事業所における収入増への取り組みですが、今年度も北斗市役所、北斗市地域包括支援センター、各事業所や地域住民からの相談を確実にサービス利用に結び付けることで、担当件数の増加を目指してまいりました。しかし、実際の請求件数は目標として設定した135件を達成できた月はなく、最大で134件、年間平均で125.6件と目標を達成できませんでした。要因としては、新規で利用契約を締結した利用者様が42名と昨年と同数、例年と比べても同等程度の契約件数を維持できていましたが、利用廃止者が55名と、この数年で最多となったことが影響しました。中でも施設入所された方が23名、期間中に逝去された方が16名おられたことで、登録利用者数の大幅減少につながってしまいました。2024年度は介護保険法改正により居宅介護支援費と特定事業所加算のプラス改定、一人当たりの担当利用者数上限の緩和という、事業所にとって収益増が見込める変化があったにもかかわらず目標を下回ってしまったことにはしっかりと反省し、4名全員で目標件数達成に向け新規利用者獲得に取

り組みます。

次年度も引き続き複合的地域拠点の総合相談窓口としての役割を担い、地域の高齢者やご家族が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、地域になくてはならない事業所として適切なケアマネジメント提供に努めます。関係機関との連携や各サービス事業所、地域住民の皆様とのつながりも一層強化し、担当件数の増加、利用者様の満足度向上に取り組んで参ります。

2025年3月31日

居宅介護支援事業所「美ヶ丘ケアプランセンター」

美ヶ丘在宅介護支援センター

管理者 伊藤 信 一

2024年度事業報告書（ゆとり）

はじめに

今年度、せせらぎの家ゆとりでは、新しい体制のもと、美ヶ丘敬楽荘拠点を含めた高齢者部門全体の一体的事業運営を目指して取り組んできました。

特に同拠点であります小規模多機能型居宅介護「美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずな」とは、介護量が増大し、在宅生活が困難な利用者さんを継続して援助するため、せせらぎの家きずなからせせらぎの家ゆとりへ移行し、ご本人またはご家族の意向に沿い一貫した支援を目指して取り組んできています。

今後は、本体施設である美ヶ丘敬楽荘とサテライト施設である当施設が効率効果的な連携を図り、持続可能なシステム構築ができるよう取り組んでいきます。また、当施設運営に関しては、総延べ入院日数、入退居にともなう空床日数増加が起因して、年度目標利用率を下回る結果となりました。

入院日数は、2024年度を通算して425日、入退居に伴う空床日数は平均が7.9日となっています。ゆとりショートステイからせせらぎの家ゆとり入居へ移行するケースが増えてきており、施設全体での在室管理を細やかに行っていくことが求められています。

そして、何より大切に取り組んでいくこと、それはトータルケアプログラで学んだことを通して入居者の状態把握に努め、基本的なことを丁寧に確認する取り組みを強化し、入院に至る前の予防的ケアの実施及び早期受診を徹底することを進めてまいります。その結果、総延べ入院日数を少なくすることで安定的な入居稼働率を確保していきます。

また、ショートステイにおいては、居宅支援事業所のケアマネジャーから信頼してもらえる事業運営を目指すため、利用者さん・ご家族からの要望にきめ細やかに対応し、緊急利用にたいしても柔軟に受入れができるよう取り組みます。引き続き医療機関等からの新規利用受け入れをしっかりと行い、稼働日数の拡大を図ります。

そして、今年度も計画的に人材の育成に重点を置いて取り組んできました。全国高齢者ケア研究会研究委員長による定期的なオンラインでのケースカンファレンスや施設内における職員による基礎介護研修を実施し、必要な知識・技術の習得に努めてきました。次年度は、トータルケアプログラムを導入して10年目となります。関わる職員が理解を深め、根拠をもって入居者支援に携わることができるよう推進していきます。

また、介護人材の確保においては、函館ハローワーク様の協力のもと継続して取り組んできましたが、未だ必要な人材確保に至っていません。引き続き事業所のPR、職場説明会への参加を通して、高校卒業生を中心に新卒者の採用を目指して取り組んでいきます。

今年度、働きやすい職場環境の構築を目指して取り組んだ7連休取得は、年次有給休暇が付与された介護職員全員が取得することができました。2025年度も引き続き、7連休取得に向けて取り組んでいきます。

今年度、特養の年間平均利用率の目標値を98%と設定し、多職種協働のもと入居者の健康管理に努めましたが、総延べ入院日数の増加、入退居に伴う空床日数の増加により、年間平均利用率は95.2%となりました。

短期入所生活介護については、年間平均利用率の目標値を85%と設定し、様々なニーズに対応できるよう取り組んできました。結果、年間平均利用率は76.8%と目標には届きませんでした。引き続き積極的に利用拡大を図り、目標達成に向けて取り組んでまいります。

物価高騰、自然災害の増加、新型コロナウイルスをはじめとする感染症など施設運営を行う上で様々な課題がありますが、介護が必要になっても地域住民がいつまでも安心して暮らし続けられる施策を忘れずにこれからも取り組んでまいります。

2025年3月31日

地域密着型特別養護老人ホーム
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとり
短期入所生活介護 美ヶ丘敬楽荘
施設長 加藤 秀隆

2024年度事業報告書（きずな）

はじめに

今年度も、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにという包括的なサービス提供を目指して、他事業との連携に努めました。いこい食堂へ利用者が通う中で、いこい食堂相談員経由で4名の相談を受け、3名が新規利用に繋がっています。また、在宅生活が難しくなってしまった利用者6名を、ゆとりへの入居、ショートステイへ繋げることができました。7月に全盲で聾の方の泊まりを受け入れた際には、市役所との連携が強まり、北斗市聾協会とのかかわりもできました。

収益面に関しては、平均登録者数は25.7名でしたが、介護度の重い方を、ゆとりへ繋いだこと、包括からの紹介ケースが要支援ということもあり、低迷する結果となっています。

運営面においては、生産性向上委員会を設置することで、訪問・送迎の順番・ルートを検討し、その他、日常業務の効率化を行うように努めました。看護職員1名の退職はありましたが、今年度、介護職の離職はなく、安定してサービスを提供できていました。

昨年12月にコロナウィルス感染症のクラスターが発生し、利用者11名、職員5名が感染しました。幸いにも重症化することなく終息することができました。継続して、換気、手指消毒、マスク着用など、感染症対策を行なっています。策定したBCPに基づく研修も行ないました。

桜回廊無料休憩所の再開や、ボランティアに三味線の演奏をしてもらうなど、少しずつですが、コロナ以前のような地域とのつながりが戻りつつあります。地域とのつながりを大切にする姿勢を来年度も継続する必要があります。

2025年3月31日

小規模多機能型居宅介護
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずな
管理者 繪面 岳夫